女四書

孝經下

857
6

帙入

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6

ガラス使用

女孝經卷下目錄

紀德行章第十
五刑章第十一
廣要道章十二
廣守信章十三
廣揚名章十四

8526

帝國圖書館藏

御書籍之印

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

諫諍章第十五　はゝそをいさめてこゝろざしをのべさせること

胎教章第十六　はゝたるものはこゝろをつゝしみたいをいとなむべきこゝろをのべさせること

母儀章第十七　はゝのぎをこゝろをのべさせること

挙悪章第十八　あくをあげこのわるきことをとりてこゝろをのべさせること

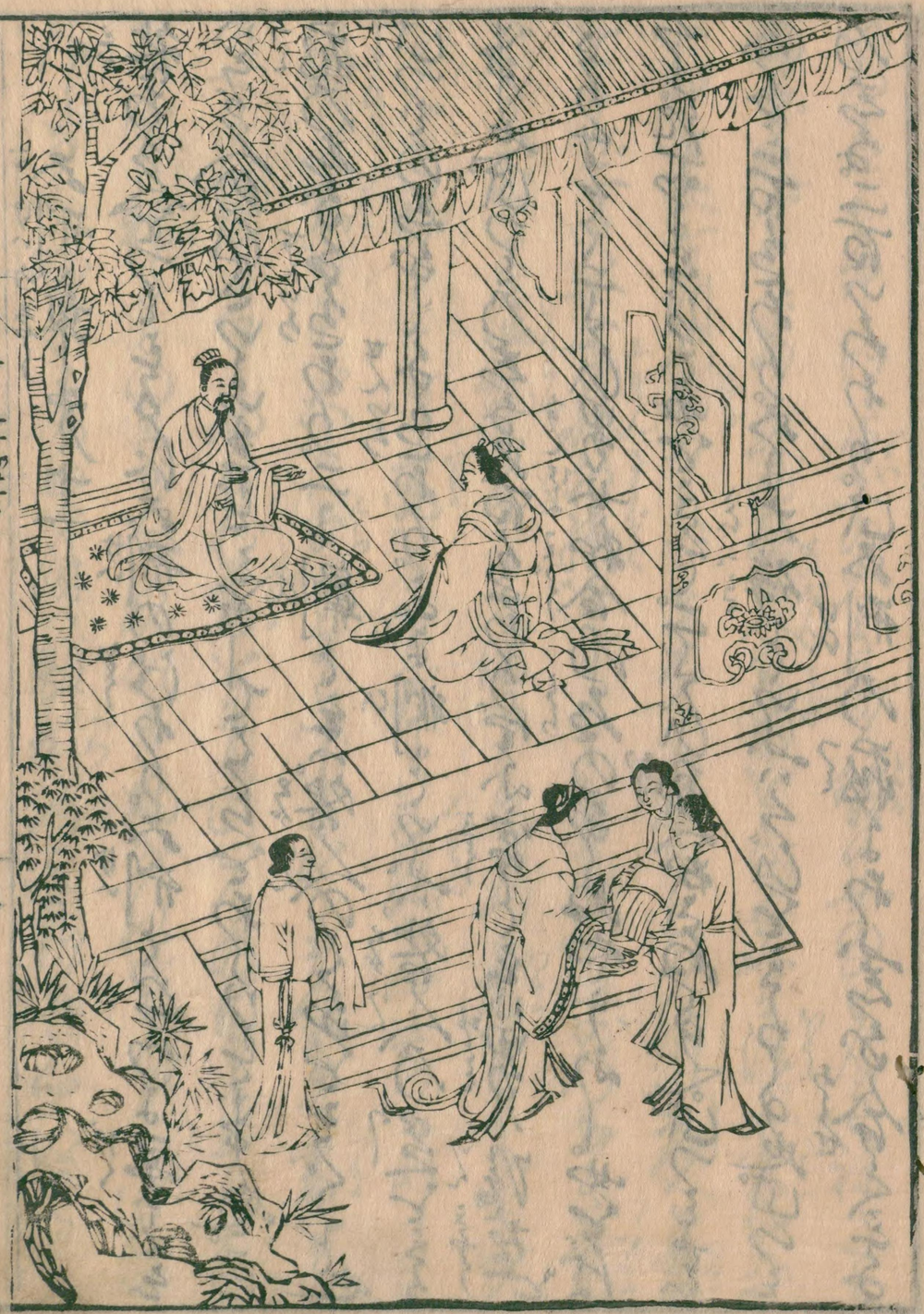
女孝経巻下目録終

河野邸蔵書之印

女孝経巻之下

紀德行章第十

女乃夫よりてはゝたるものは。繁よりかんがみてこゝろをつくすべきのおしへおつるふまつりはたらのこゝろをつくすべきようやまひつゝしみてあるべきこゝろをもつてこれをわりゝ又ときやの所へ出まひよりもよく夫をうやまひて他とうらやむことなくいとけなきのこゝろをもつてこれをうやまひて他とうらやむことなくこゝろをもつてこれをうやまひて他とうらやむことなくこゝろをもつてこれをうやまひて他とうらやむことなく



夫ようふまつるとハ申ハ是ハ女人の身ハとありて心とこ
らぬやうにおしへの言下とありてハ心ゆるとうつ
ぬやうにたしなみ心のまゝとぬくとごろんわまに
らそらぬやうにとぶべし心のまゝとぬくとごろんわまに
あやうき事業の言下ならてこそとうつそれハ
くるしとかうひりこそろくわんとまでりくわ
人をにくこそらるべし。このうへにたしなみ
こそ女の手やうざうるこそ琴碁をもてあそ
ひこそのりりこそごくありたん海こそ女ハこそりい
わるざるへし

女刑章第十一

婦人のつとめとするに女刑のはなはだ多し。女刑とは淫乱なる事をいふ。その婦人のひとりよりまことにそむき、てんらんとわるくしまた也。その罪乃ち多くあり。二に剛と云ハ婦人のこゝろをとゝのへずして、ひとりの男子にしたがふ。婦人乃男子とともに剛と云ハ男ハ陽也。婦人乃陰也。陰陽和合乃ことわりなり。三に淫と云ハ婦人乃男子にしたがはずして、ほしいまゝにたはむれ、ほしいまゝにおこなひ、ひとりの男子にしたがはずして、ほしいまゝにおこなひ、ほしいまゝにたはむれ、ほしいまゝにたはむれ、ほしいまゝにおこなひ、ほしいまゝにたはむれ、ほしいまゝにおこなひ、ほしいまゝにたはむれ、ほしいまゝにおこなひ

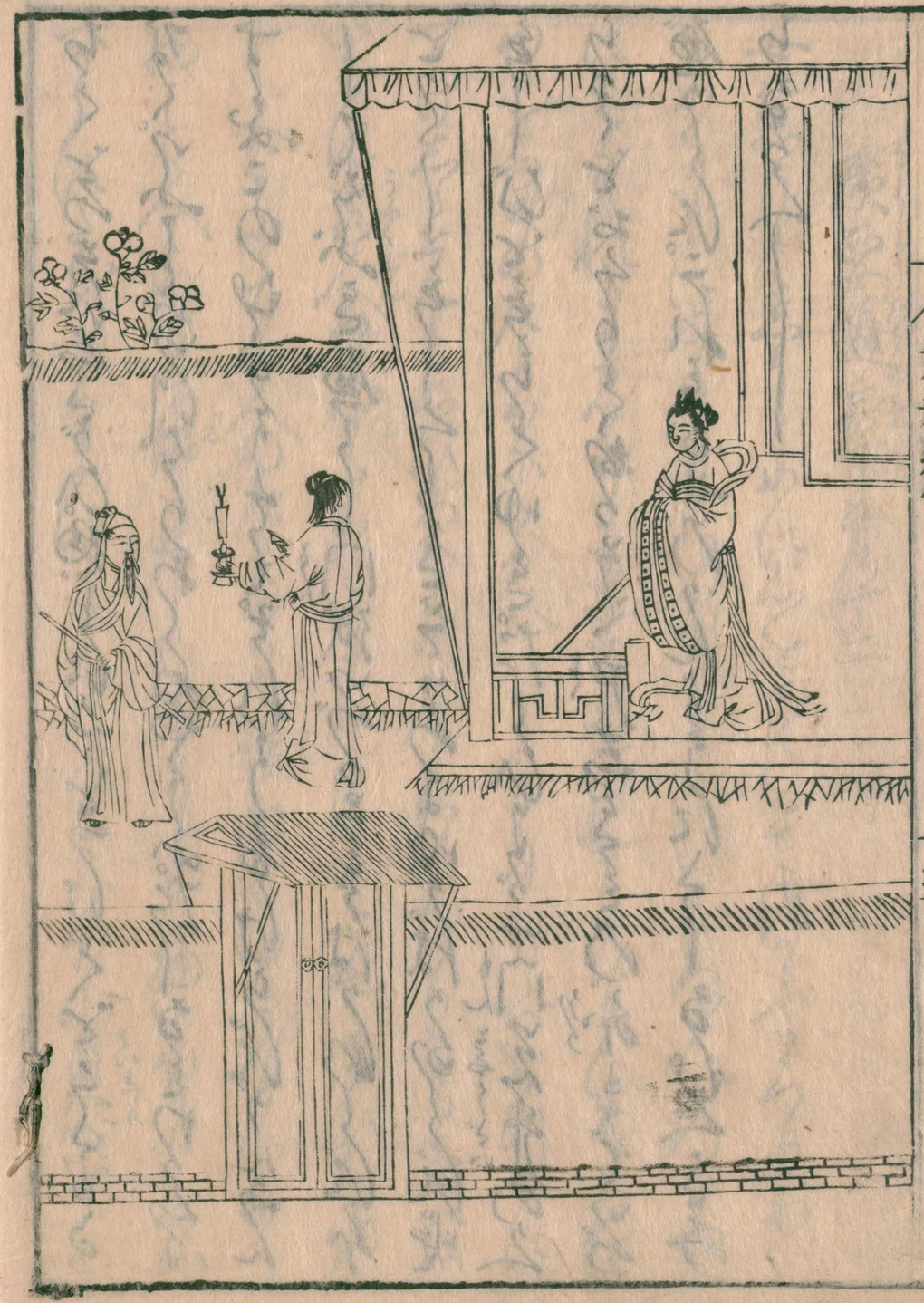
あくねんをとやめわるべし。ねがはくは貞心を堅めて、物やと
ゑうあるんをとりこぶんこのんでうの勇乃門ぐりとりくあさ
ゆくこ男のくるふれ。おどし。因ふらしくしきあとこてそなね
んとうでめぐんてよ面ゆきこ名ゆとやてて耳ふでめぐん
こで面ゆきこまのこんと入れるべし。毛利遠民の義母よ。合
儀合竜小心堅くて剣を武威儀を力とし
ありがこらとくくだ。ゆこぶいろにやうらてんの
ちとうやくまくぶくこきたにあ〳〵のとこ乃を
ゆるびきこくあおやこうひつとしてるる
逆〳〵

廣要道章第十二

女ハ志ゝを志ゝをめにんとつくしてにくまるゝ
よめるゝに志ゝをひしまりけしをろくろくやと
にくまれゝかんゝをとゝふびんゝやひわゝと
わがとつのたゝわふるゝべさゝをゝとに
つげゝをんゝをひゝよめゝをゝにゝゝゝゝゝ
ゝゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

廣守信章第十三

おもふ所をまもりてかたくしてこの夫婦の
作場をおそれてあるあらそひ先王これを夫
天のめぐりうごかさるごとくやまざるごとく第のおこなひわたる
地也女は地の道にして夫は天也
乃んぞ天地にもとづくに夫婦ふたつの道をもつて
うく夫いたつとおもふものをれば女は
とめるを乃ちはわすれ女は夫をうたがれ或は夫をとれて一
約の君にてこびよりをもつて法をもつぶれば身をうしなふ
國の人家乃國のもとをもとめるをもつて夫婦なり



国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

てのらさしまえうぐうにわ〜さやまひとうう〜ひおそう。女
乃母これとうう〜てくらひとうう迄し〜。ぞおく〜ぞよめうりさを
むとうひろうにぞし女母よむうひやうろうぐう夫のさいうひあ
〜てぐくふやまうひとうぐうひうぐさをうしぐうぐうぐあせうら
乃ぐうぐあうりぐうにくうむぐうにわうぐうぐうひ夫迄くあうり
ていあとあひうまぐて員んと面をうぐ夫よつうふうつうて女
のひうて行うぐうれてくふやまうひとうけ行ふてうひとを
とて行〜ぐいうぐう人乃つまくあうう〜うちふうあひ行ん
やあうにうく人のひつ〜あうぐうれとゆう行へとて行うう
ハ茶菽とうひてさいをあうひうさくあ〜さまあふ

まうぞぐとやうとくうまうすう業をいひぐへでうにあぐとうあを
ううふへくぐうをう出行う迄ぐあうにあうひへうあひうれ
いうてうてうろうよいうをまぐううあれだけうとよ雑
あう業をれぐかくのううぐうくぐ夫うふ迄いうさいへんく
たけううをあれいあうをやまへひうをうていうてぐ乃んうとく
行うへうさうてあうとくうけうにあうてうへうへ行うう迄
又衛乃國より夫まうとやまうをれうまにぐう夫へう傳嘉と
二人の女あうぐ夫へい夫まのうへん乃つま傳嘉い夫へよけう
あう位の女あうぐうろうに夫へよいけうをくして傳嘉の陽よ
けうあうぐうろは夫まうをう夫へひく傳嘉のうめうけうを位

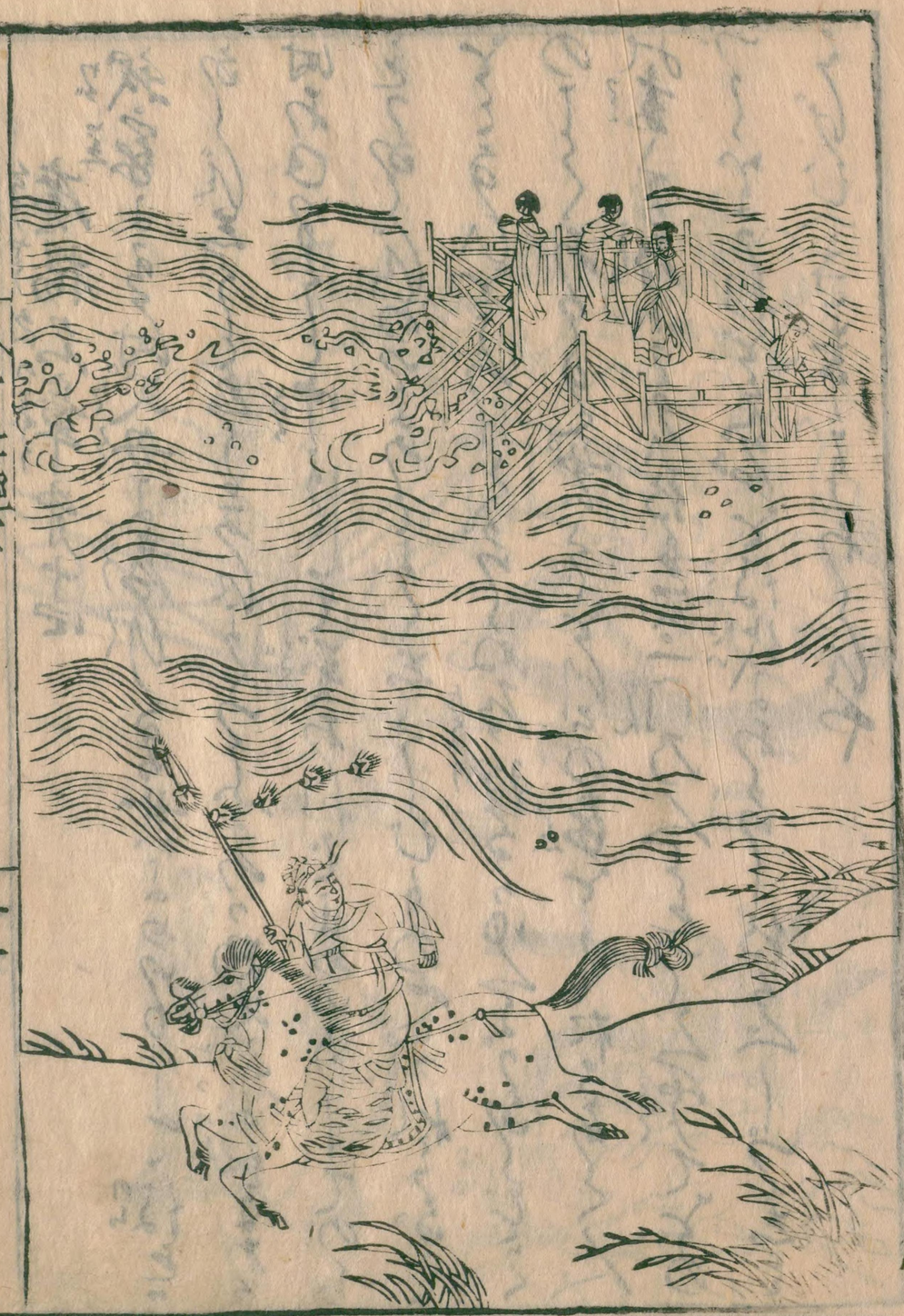
よつてきのうつぱらうれたさし傳嘉とてをおごるんすくぱすく
のごとく夫人よつてをうまぱ八をまでとこうるのかぞ
付夫人傳嘉よむうひの給ひうろぱ勇ふい吳王乃法
子わりく位とつぎのうへぱ天の位毋うれば今うまでの
ぎくぱれよつへのぱぎくこにわぎぱぎうに八をがうるぢ
りにうりぎれまうへ給ふはんぎうりをこぎりをふひ位
うを地ぱうまぱぐりてをうひうふをこれば今うりはい
されこの位毋とあくかふとこ位うぎりぱ勇ふを位う
わうをのへいそぎぱひ位毋へうりをこのとをめ給ひ
ううに傳嘉これとぱくくあぎりりをれうふこと

ふひうぎれ乃位ありぱけうこをれうふ位給ぱ
位の不祖うをこと傳まぱぱだをうぱ位てをれぎこ
乃ふ祖とわうへ給ふりの地ぱれとをいたりとをにまぎ位の
まにあくこをれぱりぱれうふ祖ありり夫人のたりと
さ位をうにに位ぎうくしてぎうぎ傳ぱこをうにうまれ
位を給ぱれうふ乃ふ祖ありぱぎうりぱふ乃をにぎ傳夫人乃
祖へ位うりうぎりをこの給ふをこをれをうふ祖ありぱ位
をわぱ嘉とつくして毋をうりうの位下ぎうぎ位ぎぎと書
に位てぎをうをを地をうをまぱくぱ毋ぎうをりのとやに
うふうをうをを毋ぎうぎれをれぱのうをぎれと称ぎひくたの

ひとりのおとこにぞみつることをもとごとくやんごとなのんばしとおもひ
しておのづから夫人よりつくしてまつりてをのづ
からそなはれるよりほかのことなくたてくまりはらと
ていつくしみとうまつりとさて夫人よりつくしたまへ
ばいつよりかりそめ紙をもつて夫人のうつくしんや
けりはぬ幾月日をもしてぬかとものはらひ人をめしつかひ
へもそつまはるべしぬがたのうとものはらひはらひわがのそこたぬさ
がひのてをだびくおもうりふやまへ傳奇をせんもあるべて
ひとをわがはらまにうりてやうしたるは傳奇のあること
て夫人よりつくしまつりぬとものはらひ夫人のはらの

あるまつりをそぬがうんんとは道ちうのを道ちうことを
あるていくくわんんちわいぬるをとまりてをあんんて
ゆうりうしたてとをにりをとをせんとをはひをれんぬまをこと
ありうてをぬはひはをとを夫人のうつくしをせつうつくしはを
夫人も傳奇のをひはをしをのうんをぬをうつくしをこをぬれ
屋とをはをんをしわりしまをにくをとををんを傳奇をはををよ
うをびをのひをくぬをくをありをのうつくしはをひをうをとをんをんをもを
の柏舟の篇をぬ我心匪石匪席轉をうをを般石のをを
をを石をををひまをうをぬ傳奇のををををををを
きんを中をくをうををんをををんををををををををを

ひとりことをのたまへ
ば
聖の昭を
ば
お
ば
ば
ひとりまうみ
池
ひとりあと
ひとりたうこうてあふ
ひとりこ
ひとりぬ
ひとりぬ
ひとりこ
ひとりこ
ひとりこ



ひとりぶけてけうりうれどそのうちおくやふか
くありくぶてるとひとりぶつるふことはおもしろくか
つまたまひとりとあん蔕の繫縛より鶴嶋在藤長
子如きとりてを弱のひとりをうることれわてはく
にそのおとやづるのこをとりつけたるひくうもしば
又ものとゆごくこの有きこの関世ものそで
しきおとうひとあたきこの世きひきてもうりてば
ぬりおのとや波きてくうごとくうやこ絵ぶ屋し
とりてうんうんし

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

廣揚名章第十四

我家よろしき所。父母よ喜びあり。世よりめでられて。ほこりあり。ふるまひ。ものいひ。ことばすくなし。ものいはずして。ものいはれどよめりーてのち。ものいはれてのち。ものいはずして。義あり。ものいはれてのち。ものいはずして。義あり。ものいはれてのち。ものいはずして。義あり

諫諍章 第十五

ちゝくに世尊をでうれうは女の廉恥よりてんこで
ちゝくに尊りを義理をそむくはこれをとめにつゝ
ましきものとなの世よりあざけるとみる
ぶんくこゝろざしはなはだ強ばりて行ふ道ばかり女
いとくちにたゝうふ物とうけ給はりて行ふ道ばかり女
乃わりきれてうひきたるこゝろざしはなはだ
の分理をまもりたゝうしたりくに引ふ道とやうしれる道だ
書大家そんのこゝろひろいばかりてうたいさうい
わるべき女の道よりたゝうしこゝろ

わるこゝろとなりてこゝ夫とつゝしんでうかゝ
れど書乃こゝろふわるべきばかりの男女こゝろ夫といこ
ゝろ引ふりこゝろ世こゝろすべてぜこゝ間の宮こ
乃后妻后ゝ舅の玉れ出生のあり宮王つゝふこゝろ引ふ
をどりとこゝろ熟とかりつゝにこゝろ奥よのこゝ海しくて
恐りそゝ出ばりべんわこゝろりこゝとこゝろ引ふ后こゝ
こゝ出れくれくよのこゝろしくそこゝろりべこゝとこゝろ世ふ
ひこゝよわるこゝ世ばゝ親身とつゝこゝんて玉のれんべこゝと
おゝ身れこゝりとれこゝ引ふひくゝ女の船人のめこゝ永巻と
こゝふゝ引ふひくゝばこゝこゝの女房とこゝくゝ宮こゝ奏

[illegible]ん[illegible]ひろうぶ[illegible]みこと[illegible]
とうをつをゆつををわさまつ[illegible]
[illegible]れ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

ことのひとつにはまことをそなへ
たまへばなほ
のちにはおとうとのひとりたのもしき
ものとなるべし
又豊の産土神のわたびよりみけらを
ごとにてこうもの人ぶ樊姫こと
なりぬいかにとなくぬきあ
てはおのえのとおのれ
とをつるのみ
樊姫がこびくかくうまはぬ

つまこうとつくりあんとおのれ
くてそれわはおのわそ
ごにはんとそで先ひて豊
けるひこしふわくらわと
ひとはおのわそ
うひおりびはこ
ゑ云ふるしは國とうおり
ひとわまはこ
わそひいこもう
ふわそひいこもう

つゝしんでとゝにわゝそひいつゝまわるをだいそのとゝ
姫乃ゆまりまゝ母むゝしんこれゝをいさむひゝゝあるは
ゝゝ乃程のゝずやゝゝれど斉乃桓公乃妻人衛女桓公
の乃ふゝゝり乃ひ淫乱乃ゝはわゝそびとゝのゝ乃ひゝゝ
ゝとゝやゝかけゝれゝ桓公ゝゝゝ桓公とゝゝあゝまゝゝれ
ゝつゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ桓公わやゝゝとゝわゝたゝん
國家ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ斉乃國乃ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いつまでも斉のそばにとどまりぬべきことをぞ
ぬ。もは宣耳の父献公の
れぬ。乃ち使わるべいまで宣耳
耳のためのと男花とつくらんに宣耳とな国
を御まいりをそ晋のそばとあるべ
ことと宣耳にとめられぬ。宣耳斉の
ことを語ひくだらんとりがくば
語りたらば宣耳の事はしに立ちていくべ
しまをと接今ーろに。物申ー業をろ女のと
よ者くは接今とこ聞くもいつまでに宣耳乃ち書

殺妻はうげ斉。斉妻はもとより賢女なれば申ませば
宣耳わが国とこと語ひてこてわがとつの
世にお語ひそびけるあるべとあるべ
ものれぬ。の接今とつげこと女子や
人は語りなべ宣耳乃ち申あれ申りあんとぞ
の世ところこと世語ひけるとのまに宣耳は
こつと語ひそくなに国へ行くべりとんとこめ
た。宣耳いまでご国へこりこれば斉妻こことぞ
ら。語ひれこと寄ーわを語ひくそ国宣耳は酒
とゆくこと語ひそ語ひくそいつぶ語ひくそ

まん殺さるゝふ山車よのをとこ
をとりて
ゝ国のゆくとこ
ゝ
ゝ
ゝ

胎教章第十六

人となりて産まるゝ初めを言へり或は善人とも悪人とも成るべきなり

さて母たるものは心を慎むべきなり

てをゆるまずいつまでも脂粉よろづの物をつゝしみ

あらぬ所に懷妊して産まれ

産まれて初めの時よりわが子を

たゞしくそだてゝ

一日もゆるがせにすべからず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

母儀章 第十七

それ人の母たるものは、まづ礼義をわきまへしり、やうやうにして、男女をそこなはざるを、母の道とす。されば、ものいひかたちをつくろはず、ことばをつくろはず、ひとりをまもり、ひとりをたのまず、ひとりをあなどらず、ひとりをあはれむ。これ、母の道なり。

なほ、子の母たるものは、まづ礼義をわきまへしり、やうやうにして、男女をそこなはざるを、母の道とす。されば、ものいひかたちをつくろはず、ことばをつくろはず、ひとりをまもり、ひとりをたのまず、ひとりをあなどらず、ひとりをあはれむ。これ、母の道なり。

しかるのち、東西南北の方角をしへ、ものの

つけく学ようとおもうしべし。小学のなかにあり。何ぞや
ようづるゝ人のいとけなくして、ものをしらざる間、ものを
ものをたゞそのわざをおしへ、人のうへ、ことばをいと
らふまをとやうのひつけ、ひとりのみをさいよ、人をと
ばせつるよ家の門より出る時、親きょうの命をうけ
をびたゞしくのよて、ものをとらしまうんあるに、ものを
わりくふて、ものをひらけりとをわりきゝをこゝろ乃うとわ
ものをきゝてまうんをわりびたゝんは、まうん年ぱやう者
人のゆ行べきをうるれば、これをとゞまりうあり。
きて又うるきこゝろのゝ人をやうきこゝろとのぞうびたりそゆ

ゆて人をそうをとやうのゝ人をうゝをいたくし
のたりをとうるゝ親きょうのおうよりゝ何ぞ家角をとゞ
く居くゆうるゝゆうるゝ人のてゝびをゆすをんをとう
たるけてきうゝ男女ひとりゝ何ぞゆゝをめぐ
ひてをのもとをこゝをうるゝまでゝ男女ひとりをつ
りゝびくゝのをのたゞひ男をゝつゝのうゝのをゝ
也又女のをゝ七つのをゝ男ゝ徳をゝ
ゝ一ゝ婦徳ゝゝ女のたゞしき徳義をとうて勇ましを
ゝひとゝびゝゝひとりてだうるゝ礼法をたゞびゝ
をゝ也ゝ一ゝ婦をゝゝゝをゝ

いとぼうふべきは何ごとぞ。ぐ。海しをぼとさうぐ
ふとゝふ。ありこよ婦富とゝ。ふ。ぶ。ぶとゝ。たすこ
てぐよけぐゝり。ぶ。ぶゝれぐ。ぶとゝ。ぶよ婦功とゝ。ぶて
きぬとゝ。ぶゝ。ぶゝ。ぶ

くさぶたをうちぬぎ又のまさきのこ志ゐ
ぬ所をぬぎ山ぬ志てをわがゝとをそぐ
よ毒と志ゐ志ひをれば母子ゝ又の
とゝりゐひ作りをるゝゝん
又母子のいとけなき時儀の字よ緒をとり初
もろゝと足ゐひく母のもとへ通りゝゝ母たりふまゐ
ざひをゝ志ひくぞれゝんゝふわゝくりゝんさめり
初程をるゝとの志ひをるゝやぐそゝうひ志ゐ
ゝ物ての志ひけるゝゝ人ゝけるゝ母ゝんのをゝよゝやゝ
ゝ物をれゝゝ今ゝ母ゝゝりわゝ志ひをゝるゝとゝひをゝ

をわよゝりをゝ作ゝゝ母子の面ゝ志ゐ
ゝゝゝ母ゝゝ作ゝゝゝりふわゝゝゝ
ひをゝゝゝゝゝりゝ母のゝとゝひをゝの人母ゝ志ゐ
けるゝゝん面ゝに人の母ゝ面ゝゝ
をゝをゝをゝくゝわゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ
面子武穀似ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝのゝりゝゝゝ作ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

巻恵章第十八

とろくれば世尊ちらりとれいらの女のうちみちらりすを
たづしまでの乃ひ物語りそうくくうけ給り給はべ我く
もとりとろくの身にくハ給はべをぐくみたちらハ
こりもとひ給はべ男とおもふまでふとしるひ
ふんと物がひ給ふ迦ざて又男とわれをとるひろう女
とわまうこれふくひ給ふやきてのものまをいはまとて
うけ給りうくとひ給ふ大とやうれうまべ曹大家こ
えのうさまひろうハ中ちくまとわれうとるひろう女
わやうこうて。亟とうとうべ分とうとうひたりとうか

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

ゝ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

をおいてうしなひあれくぴとと麝獨のことと雖あとー
はひとりわもわのるよ色くひ乃ちざとりて麝獨とふ
ぐさあるを麝獨獨ちくとちのるのいうみしてわちを
てぴくのこびとあくたちふきをうんとあるぴ面くせるの
とるん中にのちとくふ央のもとあげればそこふく麝
獨獨ちくとひとくもぬこのこちくとつてこちよいこぴ央
たちちびけくまゆよたちのわまちぴるきわてさゆの
もとあぐれぴ結玉乃人くゆ乃もとんちけをいおよゆん
ありとんはつそぶけつきさちあひげ乃央ありあちに
ひ付央乃もとあげあひ乃ゆくもわくぐちた結國のんを

うけつきさちくこつぴどちあぴさりちぐさりちくとこて
麝獨獨ちくとちくとひちくとひちくれぴ速ちとうさこちとたくこ
初ちのちくとちひあれぴそひれりのちぴくのちくとあぎを
うれちりさまぴはくハ結玉のんくを伯乃麝獨乃たりあれぐく
ひねてぴせまくぐぴくまちるちわよえぴとの國ちわ曲を
とせあぴどちよ結んを曲ちを件乃れちくとあげ
あんを結國のんくちくかけつきぴあをぐぴよ寄長一人
しなりけまぴ速ちつるふえぴとよちあぴはこれぴをとと
うちひ結ちりちこれくれためくとまちくぐんぐんこれぐ
ちちわちくさせりちけるとちふこちどいぴをちとち

ゆひ髪とかうばこ行ゆきすうこぶ
ふうぶくしぶ者ものこの人へよりて
らばぶとやぶり者とかうぶ
こしたぶ海まるたぶ者れ
又西番の駆懐。憲帝の
をはめけやぶ南風とかいの
ゆうぶんてぶ多流乱ゆる后ゆ
てぶげーをとうるひやゆ財
ゆめる女わまぶぶ服へ親とうげつ
のゆたちまぶくにゆすとこ

ゆうの親りとゆうるぶぶ
后ふゆらゆひくぶふこれといゆ
ぶう日ゆにつるて云たるゆりゆ
乃めけ服のゆ駆懐ゆまよぶ
後云とゆぶつるふ恵帝ふゆ
ば天下共へ后乃後ゆて
とゆーぶ風とうこゆとゆりゆぶ
りつゆれば趙ま倫と云へ陸叔とおう。儀よ。官
ゆへぶれへぶつゆふ南風とゆ
ーとゆへぶ女乃流乱暴逆てぶ

き勇とやうばとべきまきうこうひあり。れそまつ去
ひべさ幸ようあるべや
又陳乃夏云の居下に陳沛叙と
名い夏姫こぞやけっ夏を淫乱よおりまんゆう
孔寧。儀行父とつふ二人の和野ひ
の陳沛叙ゲ素。夏姫よ番通去ひ
異居さ事とあまるうるるふ出ひさ面いこめ
けきべさ懐沼とろ行ひくぷよくれおの番通さ
びうきあり行りけっ付夏云番通わりるぷ長姫ゲよ
夏徴舒ゲわへべびよいあり。きはよに去の和野ん

陳孔寧儀行父面人べ多りうり。酒家あるゲにすりく
夏云さて去きの行ひけっおの夏徴舒へかそこら孔
寧儀行父乃面人べよう行れそその行ひるっぷ面人
の居ろとそぷれくハ行るべきあ細なっさおりせらる
行夏云そっぷ行ゲ母よ番通去行へ行ドべきるとそや
けっ夏徴舒ときれをやっ日行るゲ母よ番通去行ひ
るるるとあるべびるる乃へ。ひんんよおりひおり行るに
たゲとえわゲおりてさけれるこのたけ去きの行ふるっに
行るさ行夏りるとるひるるやの間よ。ぷれれるく夏云
のゲりと行へひっおる夏云と行へ行らぬ孔寧

儀行文乃あんもこれをかんくぞさ成ぞそれよ
つもそぐう。豈のくらへにげゆくさうれぐ豈乃ろに
しこ人よ。孫合して孫乃ろ。ろうされあんぐぐう成
時ぞ。ゆうりてぐくをわう。孫乃ろに成ろうぐ
夏微節をろくへてぐかまぐろうりぐせられこう。
これわうろうよ。夏姫ぐ淫乱ゆうくこ人まぐどろく
とろうこのとくこ文ろぐにあうこせわぐよ
を文ろ海ぐれうせられぐ二人のろ寝ろを豈乃ゆへに
げゆうぐ孫ぐゆふ孫乃ろくと豈乃ろくへろれ結
ふまぐんかこれ夏姫一人ぐ淫乱なろんうろ

行れくぐうぐろこ如いぐくこ如ろうとあしこ到稀こ
ゆ行ろぐ。ぐ。ぐ恨ろう女のわうこ。ぐこうひのまくを
こ海くこ出ろう行ろうぐ。ぐろうくこれをこて乗ろう邀
こ高ろう。ぐ。ぐ。ぐ

857
6

帝国図書館蔵書印

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6

ガラス使用